

講義目的・到達目標

研究計画の書き方を学ぶ

この学部で研究論文（卒論）に取り組もうとする人は、まず「研究計画」を提出し、自分が論文指導を希望する教員による審査を受けねばならない（「研究論文指導」は、通信制には珍しい個別指導である）。何に注意して、どのように研究計画をつくるべきか。この講義では、まず研究課題の設定の仕方に重点を置いて、その方法を説明する。

リサーチの企画・取材のコツを知る

研究論文に限らず、みなさんの職場で「レポート」を作成する際にも、どのような方法で何を調べるかを決め、関係者に取材し、必要な資料を集め、そして文章にする、というプロセスをとる。そこには研究論文にもレポート作成にも共通する方法やコツがある。それを学ぶこともこの科目の目的である。

講義の構成

講義の流れ

1. 講義「研究課題の設定について」
2. ゲスト講義「リサーチの企画・取材・執筆」
3. 講義「研究計画書の作り方」
4. ゲスト講義「私の研究論文執筆経験」
5. グループワーク「各自の研究構想について自由な意見交換」
6. グループ発表とまとめ
7. ガイダンス「論文作成基礎IIを受講する人へ」
8. 筆記レポート作成

過去の研究論文集



講義のポイント

担当教員による講義や質疑応答のほか、著作経験豊かな学習指導教員による講義、本学部で研究論文を執筆した先輩卒業生の経験談、そして受講生同士の語り合いから、それぞれの問題意識を研ぎ澄ませ、研究テーマを絞り込み、研究の進め方を構想できるようになる。また通信制の学生には不可欠な、遠隔地からの図書館データベースの使い方、電子ジャーナルの利用の仕方について、インターネット利用のデモンストレーションにより解説する。最終年度の研究論文執筆にチャレンジする人は、この科目と論文作成基礎IIとを合わせ履修することを強く推奨する。

受講するにあたって

- ①事前学習の
すすめ

この科目の主テキストは、担当教員が執筆し毎年改訂している講義資料「通信制での研究論文作成ガイド」である。「論文作成基礎II」との共通テキストとなる。他の参考資料とともに事前に科目ホームに掲載するので、目を通しておくこと。
- ②参考図書
 - ・妹尾堅一郎『研究計画書の考え方：大学院を目指す人のために』ダイヤモンド社、1999（院生向けだが、研究計画の添削例が多く収録され丁寧な説明。本学大学院の指定参考書）
 - ・白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』第2版、ミネルヴァ書房、2013（広範囲のポイントを1項目ずつ見開き原則2ページで簡潔に説明、わかりやすい）
 - ・小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009（インターネットを利用した情報検索法に重点を置き、通信制学生に有益）
- ③評価基準

最終時間に作成するレポートにより採点する。

 - ・自分の問題意識と関連づけて講義を的確に理解している者はA
 - ・単に自分の関心のみを漠然と述べるもの、単に講師の述べたことを筆記するのみの者はB
 - ・上のうち明瞭な文章で記されていないものはC
 - ・講義や分科会の内容をまったく理解していない者はD
- ④より学びを
深めるために

講義中にも多くの参考書を紹介する。各自の関心や好みにあわせて自習することを期待する。